

おおたUDライフ

視覚で届ける心のバリアフリー

UDフォント

誰もがわかりやすいデザインにするためには、文字の書体(フォント)を工夫する必要があります。

例えば、画数の多い漢字はフォントによっては細かい部分がつぶれてしまい、視力が弱い方にとって、読みづらくなることがあります。

これらの問題を解消するため、読みやすさに配慮した書体がUDフォントです。

UDフォントとは文字の線と線のすき間が大きい、文字と濁点 が離れているなどの特徴が盛り込まれたフォントです。

本紙ではBIZ UDPゴシック等、数種類のUDフォントを使用し作成しています。情報を正しく伝えることは大切な配慮です。

フォントの違いは、印刷物で見ると、より違いが顕著です。皆さんもぜひ、本紙を印刷して、確認してみてください！



はねぴよん

大田区ではユニバーサルデザイン(UD)を「あらかじめ障がいの有無、年齢、性別、国籍等に関わらず、多様な人々が利用しやすいように考えて、都市や生活環境をデザインすること」と定義しています。

本紙では、様々な方が、UDの考え方を理解し、誰もが暮らしやすい大田区をつくるため、UDや心のバリアフリーについて紹介しています。今回は様々な方に配慮した見せ方のUDを紹介します。

UDフォント例

BIZ UDPゴシック UD デジタル 教科書体 N-B メイリオ

大田区 大田区 大田区

ほかにも、沢山あります。興味のある方は、調べてみては？

フォント比較

MS Pゴシック 本文

おおたゆーでいーらいふ

すき間が広く
見やすい！

文字の形がシンプル
で分かりやすい！

BIZ UDPゴシック

おおたゆーでいーらいふ

カラーユニバーサルデザイン

色の見え方に違いがある色弱者と呼ばれる方々は、日本には、男性の20人に1人、女性の500人に1人の割合でいるとされ、決して珍しくはありません。

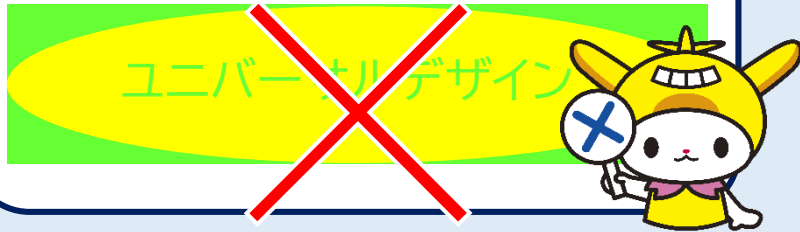
色も情報の伝達手段であり、正しく情報を伝えるため「カラーユニバーサルデザイン」を取り入れることが重要です。

カラーユニバーサルデザインとは、色の三要素である、色相、明度及び彩度を意識し、様々な方に正しく情報を伝えるための配慮です。

なお、大切なのは色だけに頼った情報提供をしないことです。色なしでも内容が理解できるようにデザインし、強調等のため、あくまで副次的に色を活用するようにしましょう！

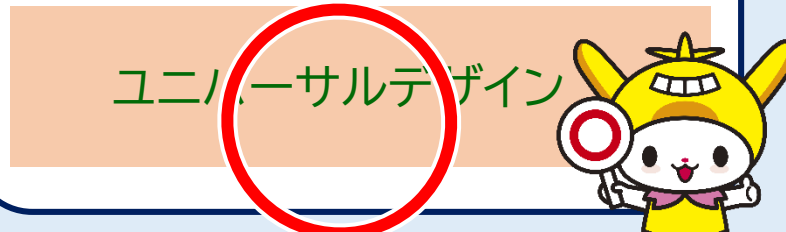
色相の配慮

例:黄色、黄緑、明るい緑を同時に使用しない



明度の配慮

例:背景と文字に明度差(コントラスト)をつける



彩度の配慮

例:彩度の低い色(パステルカラー)同士の組み合わせは避ける



カラーユニバーサルデザインを実践するために役立つツールをご紹介します！😊

◆色のシミュレータ(アプリ)

様々な色覚特性の方の見え方を体験でき、作成物の確認等に活用できます。

◆東京都カラーユニバーサルデザインガイドライン

カラーユニバーサルデザインで意識すべきポイントが沢山掲載されています。



★クイズ★

本紙はカラーユニバーサルデザインを意識し、濃い青地に白文字を多く使用しています。実はこの配色は大田区役所の建物でも多く活用されています。

どこにあるか探してみてください！

※使用場所は『おおたUDライフ vol.4』に掲載しています！